十六日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ケ月 金六十錢
□郵 〃 稅 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

閼伽井嵐

蓄妾問題に就いて

KKK生

過日本欄で奎卯生が「お妾さんと住宅問題」を論議されてゐたやうですが、不肖も大いに賛成する一人です。それ處かこの際今一歩進めて「蓄妾廢止論」を述べて見たいと思つてゐます。吾が國では一夫多妻を認めず、戸籍上にはお妾のやうな存在は無い筈だが、事實は奎卯生のお説のやうに、一般に住む家もないと云ふのに徒食するお妾さん方が堂々？一戸を構へ贅を盡してゐる。國家の重大時局と照し合せて全く苦々しい限りです。

それより以上に吾國古來からの良俗を亂すこと甚しい、家庭の平和を害し、子女の教育に悪影響を及ぼす位は馬鹿でない限り、分別盛りの旦那様方自体が良く解つてゐる筈でせう。

中には子供が無いから子孫繁榮のために、と云ふ御人もあるでせうがそれは千人に幾人と云ふ處で大部分は己れの慾望を滿たすことを目的とする不都合者だらう。

第一線にある將兵の勞苦と照し合せ、法律を以て高額の蓄妾税を課するか、乃至は徒食するおめかけさんを强制的に勤勞作業にでも徴用してもらひたい、

筆者が最近耳にしたニュースに依ると火の車の家庭を他所に妾宅を訪ねる旦那様に愛想つかせて貞淑な正妻も遂に愛する子供を殘し實家へ歸つて了つた。こんな家庭的悲劇が何處にある。何とか善處して頂きたい。

磐城の郷土研究回顧

岩手縣　山口彌一郎

三、炭礦聚落研究

私が磐城に於て人文地理的研究に手を染めた第一稿は「常磐炭田に於ける炭礦聚落」と題し昭和六年一月、三月に地學雜誌に發表したものである。渡邊萬次郎博士の紹介に依り當時東北地方の人口問題研究に專念されてゐた東北帝大田中館秀三講師に師事し、御指導御校閲は勿論、この權威ある專門誌に御世話下され、掲載された時は實に喜びに堪へなかつた。翌年北海道、樺太へ旅する時、石狩炭田を見る氣になり、旅先で偶然徳永博士にお會ひし山口縣宇部炭田調査をすすめられ、朝鮮の平壤炭田より滿洲撫順炭田、山東半島の諸炭田まで手を延ばす様になつた。その翌年北又は九州の諸炭田より琉球西表島へ臺北帝大早坂博士、富田助教授等の御世話にて臺灣の炭田見學に赴く等、炭礦聚落の研究は汎く他の地方に及ぶ様になつたのであつた。此等の研究は續々專門誌に發表一部の結論としての「炭礦聚落移動の一様式」は「地理教育」の懸賞論文に末席ながら當選、昭和七年九月發表「炭礦聚落の漸移性」と題するものは「地理學評論」の昭和九年七月に發表を試みてゐる

「遠く旅して平驛へ下り立つと、何時も平町を新しく見直す氣になる。そして何時も今迄氣付かなかつた新しい姿をみつける」とは此の幾つもの旅から歸つた時の感想であつた郷土地理研究も、自分の郷土にのみ引き籠つて一歩も出ない者には詳細に知り抜いてゐる筈なのに眞の姿は見出せない場合がある。私の旅が磐城の郷土研究に貢献してゐる點があると思ふ。そして次には「常磐炭田に於ける炭礦聚落と飲料水」と題し、地學雜誌の昭和八年八月號への發表となり「石炭礦業の支持人口」を福島縣教育の十年六月號へ「炭礦勞働者の吸引圏と炭礦業者の支持人口」を燃料協會誌の昭和十年十月に發表する等の仕事は種々の方面へ發展させ發表した論考は各方面へ相當多數ある。就中後期に於ける民俗的資料は先づ「炭礦民俗誌小稿」を「地球」の昭和十年一、二月號へ「炭礦民俗誌稿」を燃料協會誌十年四月「炭礦民俗誌續稿」を同誌の十一月四月號へ發表を試みてゐる。この間「常磐炭田に於ける狸掘と炭拾ひ」を地理學十年十月に「炭礦の生活」を「デルタ」十三年二月に發表したり、その他炭礦關係の諸雜誌よりの依頼に依り通俗的に綴つた雜篇の數も多い

此等の炭礦聚落研究は本邦に於ても稀有のものであつたらしく、相當新しい分野に突き進み得たし、一方炭田をもつ磐城地方研究にも若干資する事があつたと思つてゐる、

短歌

愛しの子

（平市）高木キミ子

愛し子のせがむがまゝに今朝はしも霞む川邊に山羊と戯る

寢ねる子の安らけき顔覗き見て今日の勵みの樂しと思ふ

踏んまへて一足出ればころぶなる吾子の歩みを嬉しく見守る

もぢ〳〵と体ゆすりてむずかるを種痘の腕のかゆしと思ひぬ

風邪にふす吾子一刻の寢ぬるなるに見とり疲れて暫しまどろむ

雜詠四首

水戸部光雅

たまさかに訪て見れば神苑の朝をさやかに鶯の鳴く

縁側の日溜りに出で毛糸編む吾が手を春の風移り行く

萬歳の聲どよめける汽車の窓にならぶ兵士の顔かゞやきぬ

會釋して通る子供に傷兵は優しく笑みて答禮し行きぬ

異說赤穗浪士（174）

桃川若燕　講
城木喬　畫

奥座敷の亂刄

『アイヤ駕の內のお侍……暫らくお待ち下されい』

『何を云やがる。汝らに稼業の妨げをされてお溜り拳があるもんかい。オイ皆んな疊んぢまへ』

『よし合點だ』

と駕舁連中五六人が息抜取つて打ち込んで來るを、

『味な眞似を致すな』

と右と左に叩き倒したので駕舁連中は蜘蛛の子を散らすやうに逃げて了ふ。してやつたりと數右衛門は駕に近よる折、駕の戸を押し開き夫れへ立ち出でる侍、數右衛門は一足退つて兩手を突き、

『住所姓名は申さねども、主人存世中勘氣を受け潤々と日を送る內に此度主家の大變、馳けつけて犬馬の勞を捧げざれば此上もなき不忠、依つて乘込み度くは候へ共、家老又舅殿に面會致すべき大小衣服身の周邊調達の金子知己由緒もなき故金策致し兼ね當惑の折、御通行されしは何かの御緣と存ずる。拙者世に出でなば必ず千倍となして御返却仕る武士は相見互と思召され金子惠與賜りたい』

『ウーム、然らば貴殿は淺野內匠頭御家來不破數右衛門正種殿か』

『エ、ッ、然う云ふ貴殿は……』

『舅、村松三太夫』

『エッ……』

と云つたが、數右衛門が弱つた。捉へるに事を缺いて舅を捉へてしまつた。村松三太夫も數右衛門の苦衷を察して金子を惠み、そのお蔭で四月七日に赤穗城へ驅けつける事が出來た。

此の數右衛門が、愛刀天正祐定を揮つて亂入したのだから強い事は隨一、早くも四五人の者を叩っ斬つて奥へ〳〵と進んで行く。廣間の角に現はれたのは附人の中でも有名な小林平八郎、鳥居、小林和久、清水と此の四人は附人中での尤なるもの、

小林と聞いて不破數右衛門、

『好き敵……』

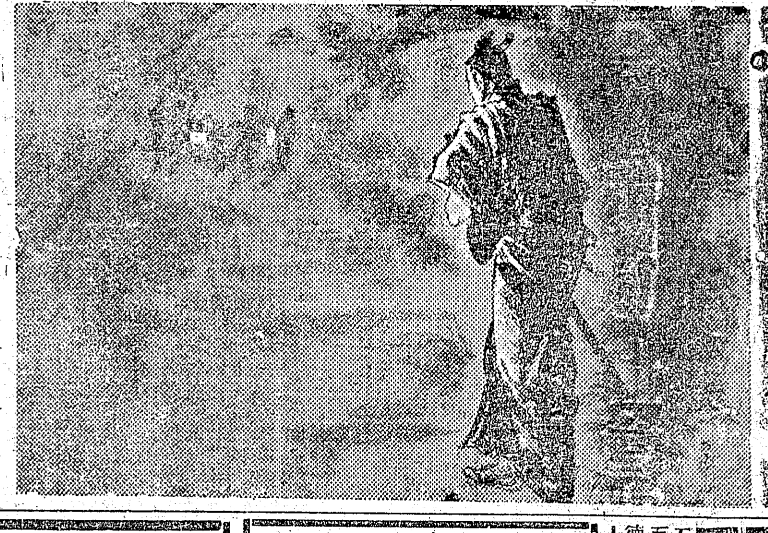
と立ち向ふ。

『心得たり……』

と平八郎は一上一下と斬り結ぶが、死を決した數右衛門の刄先は鋭く、ともすれば斬り立てられるところへ

『小林氏か、助勢を致す……』

と附人の渡部喜九郎太刀を揮つて數右衛門の背後より斬り付ける



ヒラリかはしたと、見る間に横に拂つた一刀物の美事に渡部の横胴に斬り込んだ、此の隙にと眞向から斬り込む平八郎、早くも体を開いた數右衛門、飛び違ひ狀に

『エイッ』

小手を伸ばして肩口から割り付ける、

『しまつた』

と体を開いたが數右衛門の早業にかはし兼ねて左肩から乳の下かけて斬り付けられアッと云ふとバッタリ倒れた。

血振ひした數右衛門は手許に流れる血糊を拭ひビュッと打ち振り其の儘奥を差して乘り込んで行く。

さて表門の別働隊として七十六才の老軀を提げて亂入した堀部彌兵衛金丸、槍を小脇に奥の廣間へ來ると衝立の蔭から突然躍り出した一人、

『平五郎三郎……』

と名乘つても斬つて掛る、

心得たりと一足退つて槍を合せたが、兎とすると斬り立てられ、利かぬ氣だが年には勝てずヂリ〳〵と退つて行く。ところへ乘り込んで來た小野寺十內秀和、此の人物は戸田局の兄で、當年六十才、うら門の口を固めてゐたが、奥の様子が氣になつて乘り込んで來ると此有様に

『オウ堀部氏か御助勢致す』

と忽ち槍を突き合せて其の場に突き伏せる

ハピマーチ
三宅博士發明（新田肝油）
專賣特許
五十錠入 一、一〇
百錠入 二、〇〇
德用罐 五、〇〇
特約店
平市五丁目
山野邊藥局

鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

國民精神總動員
日本國民必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
一部十セン
お取次致して居ります
平二 西村屋藥局 電三

お宅の休温計は正確ですか？ 毎月十日は無料で休温計を檢査して差上げます、どうぞ御遠慮なくお持ち下さい
醫療藥品 工業藥品 有名賣藥 衛生材料 食糧品
染料繪料 寫眞機材料 化粧品各種 吸入用酸素 計量器各種
計量器指定販賣所 みやこ染特約店
資生堂
小名濱町本町通り 電話一四七番

食事。喫茶。酒場を兼ねた。
サロン
平市銀座街 電話五九二番
營業時間
開店…午前十時
御飯は夜九時までに願ひます、
閉店…午後十一時限り、

春のヤマカのお知せ＝
チャック付……勤勞シャツ
若い人の……ワイシャツ
本絹の……ネクタイ
國產の……中折帽
澤山取揃へました
平・二丁目
ヤマカ
TEL 605

自動車助手男 車掌女 急募
求人者 野崎交通自動車株式會社
人員 助手五名 車掌十名
年令 十六才以上二十才未滿
希望者履歷書持參左記ニ申込ノ事
平國民職業指導所
電五六二番

醫院開業
內科 小兒科 專門
午前宅診 午後往診
醫學士 石坂銓
平市六丁目五丁目交番脇
石坂醫院

フタバ磁氣療院
平市中町公會堂前
フタバ印刷所內
電話一九三番

女車掌募集
未經驗者を希む
【經驗者も可・本人御來談乞ふ】
三井自動車商會
平市二丁目 電話685番

高級林檎酒
ミユキ
釀造元 青森縣弘前市 株式會社 御幸商會
福島茨城販賣元 石井德重商店
久ノ濱町 電話三二番

工員募集
一、求人者
福島縣石城郡小名濱町
日本水素工業株式會社小名濱工場
二、應募資格及人員
年令十五才以上の男子 一〇〇名
右優遇採用す
三、寄宿舍其ノ他福利施設完備
四、申込方法 履歷書一通提出ノコト
五、申込場所
平市田町
平國民職業指導所

氣持の良い衛生施設で
魚がし
食堂開店
小名濱町橋本
山マス食堂部
電話二六八番

內科、外科、花柳病科
小兒科、耳鼻、咽喉科
レントゲン科
高久病院
院長 醫學士 高久忠
平市田町 電話五一三番

國產ミシン界の王
迷はず迷はされず國產隨一
音も具合も調子も滿點
アサヒミシン
精研舍ミシン
ニッポンミシン
シンガーに優る共劣らざる機構
厚物、薄物 和服、洋服裁縫自在
販賣代理店
シンガーミシン商會
平市驛前田町

セメント製品
セメント製風呂、タイル貼り、ナガシ、ゴミ箱、外種々
御用命は――
大谷建材店へ
紺屋町 電話三六六番

附屬產院 新設（姙產婦入院隨意）
產科 婦人科
木村病院
平市新川町 電一六四

松村醫院外科部（平市南町）
內臟外科 整形外科 レントゲン科
松村外科
醫學博士 松村亨

三月十二日より
電話二九六番
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森（藤森事務用器商會）
電話二九六番 振替仙臺五一〇番

夏品選てん廉價販賣
パイロット萬年筆
¥2.00以上
御入學に。御祝に……
進物ケース呈上
平市公園前 角忠 佐々木商店
電話二三三番

氷の御用は
電話二一三番
魚問屋へ

日本生命平代理店
鰹節製造販賣
平市四丁目
志賀盛榮商店

一氣分のよい一
一皆様本位の一
一喫茶と洋酒一
小名濱町上町
紅椿
【女店員募集】

翼賛推進に 壯年動員

縣は既定方針で進む

青少年團の改組に伴ふ二十一才以上四十才までの壯年を如何にして訓練するかは、地方長官會議でも相當論議され『大政翼賛會の推進たらしむべし』との意見が大勢を制し中央でも壯年に重點を置く計畫に着手する模樣である、縣支部翼賛會では早くから壯年團の組織を計畫既報の如く二十三日平市公會堂で協議會を開き縣支部の指導精神を指示壯年を動員することになつた

當日の出席者は縣支部理事參與、青年部員石城郡町村支部長と役員各七名宛、平支部は理事參與並に常會委員全部で協議事項並に議事進行は次の如し

◇協議事項

1、縣翼賛運動實施要項

2、市町村靑壯年部の組織と具体的方針について

◇式順序

一、敬禮

二、宮城遙拜

三、祈念

四、主催者挨拶

五、指示協議

【午後三時閉會豫定】

若木をいたはれ

少年保護・犯罪防止策に

平自營會の記念催し

平自營會では十七、八兩日の少年保護記念日のうち十七日午前八時平刑務所南條所長以下職員一同縣社飯野八幡神社を參拜、終つて所員が市內並に湯本、赤井、好間方面、植田、小名濱、江名方面、四ツ倉 久の濱方面の四班に分れビラ一萬五千枚、ポスター百二十枚を配布するが

美しい双葉柔かな若木には虫の集ひ雨風に傷つき易いやうに僅かな誘惑や少しの油斷から罪に陥る者が少くありません、少年少女は邪惡に陥ることも速いが改善遷善も亦速いのであります、幾多の實例が之を示して居ります、早急に諦めたり失望して見棄てないで指導を誤ることなく正しき愛を以て保護善導し犯罪の防止に努めなければなりません」と平自營會では〃愛で導き希望で生かせ〃と少年保護を呼掛けてゐる

延喜式由緒も

鳥居公築城の犧牲

（上）祭典に際し

縣社 子鍬倉神社

子鍬倉神社は延喜式の神名帳に載つてゐるお社なのだから相當に古い歷史のあるお社である。延喜式といふのは平安朝の醍醐天皇の御代、もつとわかり易くいへば子鍬倉神社の境內に祀つてある菅原道眞の頃に出來た本の名前である。石城郡下には縣社が七、郷社が十一、村社百十六、無格社二百二十五ある中で（昭和十四年）延喜式にあるものは大國魂神社（夏井）温泉神社（湯本）住吉神社（玉川）鹿島神社（鹿島）二俣神社（下小川）佐麻久嶺神社（飯野）及子鍬倉神社の七社だけである。平城天皇の大同元年今年からかぞへて千百三十五年前の創建である。かういふ立派な由緒を持つてゐるので明治六年八幡宮よりも一足も二足も前に縣社となつてゐる。八幡宮はずつと遲れて明治卅四年に縣社となつてゐる。昔は物見が岡の八幡宮・櫻町の子鍬倉揚土台の午頭天王（八坂神社）を城內三社といつて尊んでゐたもので、子鍬倉神社は櫻町即ち今の磐城高等女學校の邊にあつたものらしい櫻町といふのはあすこに大きさ四圍高さ三丈その枝の覆ふ所東西八間南北六間といふ大きな枝垂櫻があつたためらしくその櫻は今では枯れてしまつて昔の面影はなくなつたが磐女の運動場の一隅にわづかに名殘の姿をとゞめてゐるといふことである。城山の眞木翁の話に依ると櫻町は士族屋敷が六軒ばかりあつてそこに渡邊稻荷といふのがあつた筈だからそれが或は子鍬倉神社に縁があるではなからうかといふことだつた。

慶長七年鳥居忠政侯が平の城主となつて平城を築いた時は盲人迄も人夫に使用し、物見ヶ岡にあつた八幡樣は現在の所に移し當時すつかり荒廢してゐた子鍬倉神社の境內には勝手に士族屋敷を造つてしまふといふ風な亂暴な遣り方でお城を造るためには隨分極端なこと迄平氣でやつたといはれてゐる。だから內藤侯の儒臣葛山爲篤の書いた「磐城風土記」には八幡宮は出てゐるが子鍬倉神社は出てゐない。「稻荷祠郭內に在り」とあるが或は子鍬倉神社の事をさすのかも知れぬ。內藤義概義孝父子は平城主として文藝を愛好し、敬神の念篤く神社の湮滅したものを探し出し、當時櫻町の士族屋敷の中にまるで氏神樣のやうな姿であつた子鍬倉神社を現在の揚土台に移して立派な社殿を造つてお移し申し上げた。しかしそれは惜しい事に天保二年の二月にすつかり燒けてしまつて、現在の社殿は嘉永六年五月の改築に依るものである。

平商校舍增築

工費三万五、六千圓

七月頃着工

平市立商業學校は新入生の増加から狹隘を告げ増築することになつたが建て増しは裏玄關脇に講堂と列べて幅五間半、長十八間の二階建て百九十八坪を六教室とするもので設計を添へ起債認可の手續をとるべく目下書類の製作中である、着工は遲くも七月早々からの見込みで今秋中に竣工の豫定であつて建築費は三萬五、六千圓を要するものと云はれてゐる

養蠶業界の匪正

亞米利加向けが止つて

愈々堅實性を招く

本縣の蠶業はアメリカ行きの絹糸を絶たれたので体制を更める會議を重ねた結果、夏秋蠶から政府の統制による蚕種を實施することになつた、從來通り行ふ石城地方の春蠶飼量は六、七分減じ十五萬貫程度の産繭を豫想されてゐる、原因は絹糸の輸出閉鎖によることよりも食糧增産策に伴ひ荒廢桑園に喰ひ込んだ爲めと見るべきであつて、養蠶業界は亞米利加行きを閉ざされたことによつて少しも悲觀されてゐない

即ち政府の統制は蠶種に限るもので、短纖維（羊毛代用となすもの）長纖維（主として製糸の原料）の二種とし繭は殆んど全部國內消費に充てられて居り其の一部少量の生糸も『欲しいと云ふなら賣つてやる』と云ふ構へ方で、曾て亞米利加の顎に左右された養蚕界が却て堅實性を帶びて來たと見るべきである

最近新しい輸出口に生糸でなくて繭そのものを望まれ、地方からも既に數千貫を送られてゐるなど亞米利加の日本に對する經濟拘束が動機となつて養蠶業に幸福な前途をさへ與へることになつた

劃期的奉仕

小名第二校區域民の熱誠

小名濱第二校管區各隣組員は町內會長指揮の下に十三日より三日間第二校土堤並に愛宕神社（天神）合祀の建立作業に毎日百五十人位宛の勤勞奉仕し忽ちに見違へる程に周圍が美化し、學校當局を感激させてゐるが、この作業狀態は舊体制時代と打つて違つた眞劍さで荷馬車のあるもの、リヤカーのあるものなど何れも持參で參加すると云ふ精神的なもので、町內會長高木、長瀨、松本、菅原の諸氏も感激の鍬を揮つて采配ふる狀は將に劃期的なものだと石井校長は感歎久しゆうするものがあつた

七萬圓積み 大勝丸歸港

築地市場へ水揚

既報小名濱町三代義勝氏所有遠洋漁船大勝丸は南洋漁場より十七日東京築地魚市場に入港する事になつたが、キワタ、クロカワ、メバチ十貫匁平均の大物一千七百本水揚げするがこの金額七萬圓以上を値踏みされてゐる

路線統一し

乘客に不便を招く

小名濱—江名町間乘合バスは臨鐵、壽滿屋と二本建の營業であつたのが、四月一日より臨鐵が買收し一本建となつた爲め從來の壽滿屋自動車の運轉回數が中止となうたので小名濱江名間乘客は不尠不便を感じ從來の回數運轉を欲求してゐるが石川支配人は次の如く辨明してゐる

統制要綱は一本建とする理由に回數を減じ資材の節約を圖り云々とあるのだから幾分の御不便は忍んで貰はなければならない、會社としても目下二台のバスを入手する契約は出來てゐるが機宜に應じ乘客に努めて御迷惑を掛けない方針で居るのだから當分の御不自由は忍んでもらはなければならない

定置漁業

城船主が

來月十日頃投網

小名濱町揚繰漁船機運丸船主城十郎氏は植田町小濱の定置漁場を入手し目下投網準備作業中だが來月十日頃には完成投網の豫想である

陸軍納入

產毛處理

陸軍製絨廠に納入する平市と石城郡の產毛共同處理は來る五月三日平市の郡團体事務所樓上に於て行はれるが供出者は一頭分毎に紙布に包んで出荷することになつてゐる、本年の產高は昨年の三百頭より二百頭ほど增加してゐる見込みで價格は前年通り一頭分平均十圓弱とすれば五千圓に達するわけで、副業收入としては相當なものである

若草踏んで

溪谷に山櫻觀賞

山岳會の計畫

銃後市民の鍛錬を目標に再出發した平山岳會今年度第一回の登山行軍は商店公休の二十日左記に依り決行することになつた

日時　四月二十日

集合　二丁目三井自動車々庫前

時刻　前六時五十分

出發　仝正七時

會費　乘物實費負擔

【一般の參加歡迎】

◇申込所は平市常陽支店內山岳會事務所

◇登山コースは平より大利又は好間までバスで、其處から車を捨て好間川に沿うて七キロ溪谷に山櫻を觀賞、合戶から水石山へ四キロ若草を踏んで登山、山傳へに小川郷驛へ八キロ一日を愉快に過し同驛で解散の豫定

◇コース

平—大利—好間川—合戶—水石山—小川郷

◇全コースの徒步行程十九キロ、約五里であるが概して難路なく、案內には營林署員が當る豫定であると

お賽錢獻金

感心な山の青年團

本社訪問寄託

好間村青年團小田第八分團（團長吉江留吉、委員渡邊亮信氏）では十五日の山神祭に神輿の渡御を行つて得た賽錢十三圓八十四錢をその儘そつくり代表安齊正吾、中根榮の兩君が本社を訪れ陸軍恤兵部へ獻金方を寄託した

このお賽錢は從來團員慰勞のため全部お神酒と成つて消費されるのだが、重要産業の第一線にある山の青年達は『幾何でも御國のために成るやうに』と前例を破つてお賽錢全部を獻金したもの

本社では同青年團の意を汲んで直ちに恤兵部發送の手續きをとつた

隔離舍收容七名

傳染病季節に市も警戒

平隔離病舍は既報の如く閉鎖後一週間で再開したがその後恐るべき天然痘患者の入院もあり又一戸から三名もチブス患者が發生するなど忽ち入院患者七名にも達した、目下の入院患者は

△チブス四名△猩紅熱二名△天然痘一名

でうちチブス患者は何れも病院關係で市當局を面喰はせてゐるが今度はそろ〳〵疫痢發生の季節と成つたのでこの豫防に腐心してゐる即ち割合發生率の尠なかつた昨年でさへ二十五名の患者を出して居り何れも十才未滿の幼兒に多いので市では特に季節のアイスクリーム、キャンデーなどお母さん方に注意してゐる

平の今昔

（三）

平人は井中の蛙

『英雄・豪傑』生れず

要害誇る城趾の事ども

眞木氏の話によると平の人の悪いも僅々七十年の歷史らしい、そこで今度は平市鍛冶町三國屋印刷所の高野吉太郎翁をお訪ねした。

〃そのお話ですか〃

同翁は笑ひ乍ら私の死んだ父がよく口にした言葉ですがね、最も簡單で要を得た言葉がありますよ、えゝと。そう「平は山高からず河小なり、住むもの山の高きを知らず、河の大なるを知らず、地盆にして井中の蛙大海を知らず、英雄豪傑の生れる處に非らず」と斷じて居ましたよ、

隨分手ひどい批評を下したものだ、しかしその平も今はまた移り變つて聖戰下微笑ましい總親和の銃後風景を描き出して流れ者の記者ですら限りない愛着を覺える。

さて何處にも名物はある、平の名物はと言ふと、俗に〃平の名物空ッ風にサイ大根〃だ空ッ風は何處でも名物らしい、處でサイダイコなるもんだが大根を葉のついたまゝ干して糠づけにしたものでタクワンとも違ふものなそうだ。平の町よりも附近村落の家庭の香の物だつたと言ふ、これが名物とすると平はでは可成り喰物の悪かつた處かと言ふと左にあらず、どちらかと言ふと平は肴道樂よりも喰道樂の土地だそうな。

「お城の話」

文明開化の波は土着の平人を驅逐して仕舞つたが、それと一緒に昔戀しい平情緒の名殘りの一片までも吹き飛ばして仕舞つた、中でも特にその在りし日を惜しまれるのは平の城趾だ、このお城ほど痕跡をとゞめぬ迄無殘に破壞されたお城はない

平城は要害堅固な城山一帶の自然の地形に大阪城になぞらへた築城で、正に日本一の堅固なお城だつたと言ふその名城も今は櫓は勿論ただ一つの石垣もないと言ふ變り樣だ。

眞木老の話によると戊辰の役の明治元年七月十三日官軍の猛擊に總崩れとなつた幕軍は自ら城に火を放つて敗走した、それでもお城の天主台（三階櫓）渡り櫓、大手門、六間門、高麗門等は兵火をまぬかれて殘り、勿論石垣もちやんと殘つて居た

しかし時の明治政府は平は奥羽の關門であり徳川家に恩惠深い安藤對馬の居城をそのまゝ殘すことは基礎まだ淺い維新政府にとつて危險この上もない、もしこの要害堅固な城に不逞の徒が立籠る樣なことがあつたらそれこそ大變だ。そこで二度と再び起ち上がれぬ樣との考へから〃早く城をこはせ、早く城をこはせ〃とせき立てゝお城の石垣の一片までもとりこはして仕舞つた

花見の喧嘩

返り討ちされ重傷

內郷村大字宮澤字台四十八番地製罐業前科一犯中島貞夫（三）は十二日松ヶ岡公園で花見中同村生れ住所不定菊地勝美（二）と些細のことから喧嘩と成り中島が菊地を慘々な目に遭したので菊地は同村三德床屋からハサミを持出し中島宅に復讐に押しかけ反對に中島にハサミで腹部を刺され化膿性腹膜炎を起し平病院に入院したが經過は思はしからず中島は傷害罪で十四日平署員に檢擧された

四倉常會

町の改善案討議

四倉町の第三回常會は十五日午後一時から國民學校に開き、一ケ月間に行つた色々な事情を町から詳細報告し、終つて納稅組合の普及徹底『町內の改善事項其の他について協議懇談した

講演と座談

今晚公會堂で

磐中出身猪瀨海軍大佐の講演と座談會は今晚七時から公會堂日本間に開催する

演題は『日米問題』で主催は翼賛同志會である

三坂の火事

物置一棟燒失

十五日午前三時頃三坂村大字上三坂字中町百八番酒釀業田子四郎治さん方木造物置から發火同物置一棟を燒いて鎮火したが損害百五十圓原因調査中である

四倉武德會

縣武德會四倉分區の武德會役員會は二十一日午後一時より警察署に開く

扶助料寄附

四倉仲町戶田彌太郎氏實母タヨさん（六）は夫の扶助料金を受けた內から金拾圓を恤兵金として町役場に託し寄附した

四倉校の

鍛錬遠足

四倉國民學校の体練遠足は十八日午前八時同校庭を出發各學年別左の如く決定した

△尋一、新舞子△尋二、四倉上水道水源地△尋三、大浦長友公園△尋四、大野村玉山鑛泉、△尋五、夏井村大國魂神社△尋六、平市松ヶ岡公園△高一、二石森山△商水青年校、豐間燈台、沼の內辨財天

市農會で

種甘諸配給

平市農會では今十六日午後三時から平釜農業倉庫で種子用甘諸百十五俵を配給した、十一貫俵四圓五十錢であ

商況

（十六日）

【野菜】	高	安
葱	一〇	五
人參	二五	一八
油菜	二	
蓬蓮草	三〇	一五
水葉	六五	五〇
大根	二〇	一五
ウド	一三〇	一二〇
ニラ	一三〇	六〇
筍	一四〇	
ふき	一二〇	
【鮮魚】		
目抜	一三、四	
アカヂ	二〇、〇	
かすべ	一五、〇	
サメサ	一五、〇	
マ蛸	二〇、〇	
ムシ	四五、〇	
ノドグロ	二二、〇	
マコ	三八、〇	
竹輪（一本）	九、六	

部落財產

十七日市で協議

平市では十七日午前十時から市長室で舊半窪部落有財產に關する協議會を開く

銃後の感激

軍人援護會總裁朝香宮殿下には明十七日東京芝の水交社に台臨、金壹千圓以上の寄附者をお召しになり午餐を賜はることになつてゐるが本郡關係者は次の二氏である

泉村　江尻博孝

平市　諸橋久太郎

天氣豫報

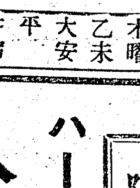
今晚　西の風晴れがちですが一時曇ります

明日　南南の風初めは晴れますが後曇ります

（十七日）

滿潮　前六、四五　後九、四〇

干潮　前一、一五　後三、一五



木曜　乙未　大安　平　井宿

舊三月廿一日

新四月十七日

▲一白　僅かの事にも取越苦勞を生じ不安勝なる日

▲二黑　新規の事業は手控へて成るべく舊業を守れ

▲三碧　手順を整へ活動の準備を爲すには適當の日

▲四綠　時機未だ到來せず萬事控ゆべき日　爭論注意

▲五黃　手綱を引締めて狂奔を防ぐがよし　病厄注意

▲六白　運氣良好にして志望成るも勢に乘ず可らず

▲七赤　利福自ら一家に及ぶべく精勵するによろし

▲八白　名利に焦れば首尾を全うせず實直なるに吉

▲九紫　旺盛なる氣運を辿る萬事進んで大吉となる

臨時休業

縣社子鍬倉神社の祭禮につき四月十八日謹んで休業致します

有限責任信用組合　平庶民金庫

東京玩具界指導者玩具デザイナー

阿部治良氏傑作

ハートある

人形と動物の展覽會

自十七日至廿六日

即賣致します

女店員募集　十六才より委細面談

平市　大黑屋

平營業所開設

今般左記へ平營業所を開設致しました、何卒御後援の程御願ひ致します

仙台市東三番町　河北新聞社

一、營業所　平市堂前二〇番地（磐城訓盲院東隣新川端）

主任　坂本忠治

債券、公債、両替、金融

多田井質店

平市大工町　電話五九一番

土木建築　鐵道　船舶仲仕

三崎組

太田勝康

事務所　小名濱町日素前　電話五〇番

海軍建築部

軍夫募集

一、職種　土工、大工、運轉工、鍛冶工

一、資格　年齡十六才以上五十才迄の男子

一、待遇　實收賃金一日二圓八十錢以上　宿舍官給、食費自辨

一、勤務地　茨城縣下

一、締切　四月廿五日

申込所　平國民職業指導所

コツキー

國基の五大製品

ケンモーサージ　國民服　甲號乙號

本絹中衣　甲號乙號

本絹レインコート　國民服用套規格

本絹レインコート　BA號

國民帽と儀禮章

（カタログ生地見本進呈）

技術の優秀。親切な仕立

大量注文も御引受致します

コツキー製品特約店

大崎屋洋服店

平銀座　電九六番